

秋 AUTUMN
2014

公益財団法人
国立京都国際会館広報誌

ICC Kyoto



Kyoto International Conference Center

卷頭 Interview

日本の文化力を世界へ発信 ——京都の発信力と京都国際会館の役割

青柳 正規氏

文化庁長官
ギリシャ・ローマ考古学者

Masanori Aoyagi

1944年大連生まれ。古代ギリシャ・ローマ美術史研究の第一人者として、30年以上にわたり、地中海各地の遺跡を発掘調査。1967年東京大学文学部美術学科卒業後、1969年ローマ大学に留学、古代ローマ美術館長を経て2013年7月文化庁長官に就任。現在に至る。東京大学名譽教授。日本学士院会員。2006年紫綬褒章。2011年NHK放送文化賞受賞。著作に『皇帝たちの都ローマ』『トライアルギオの饗宴』(共に中公新書)、『ボンベイの遺産』(小学館)、『興亡の世界史 第0巻 人類文明の黎明と暮れ方』(講談社)、2009年など多数。

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催をはじめとし、今後、さらに日本文化が世界から注目されその発信力の重要性が見直されます。国際会議などでもその傾向は強まることから、京都国際会館においても文化・芸術分野をより重視した取組みを展開しています。そこで、当館がこれからの日本経済と文化力の関わりに果たすべき役割や課題について第21代文化庁長官の青柳正規氏にお話を伺いました。

地方の文化力アップによる国力推進

木下博夫館長(以下、木下) こちらの文化庁長官室がある旧文部省庁舎が、背後に文部科学省の入る高層ビルがありながらもあえて残されたのはやはり文化的な意味があると察します。日本初の国際会議場建設地に京都が選ばれた理由にも日本の歴史と文化、自然美などが背景にありました。昨年7月に文化庁長官に就任され日本文化、国際文化交流など様々な振興、政策に取り組む中でお感じになること、目指されていることなどをお聞かせください。

青柳正規氏(以下、青柳) 世界は今「文化」をかなり重視し、各國は努力して文化への予算増額や政策を打ち出している中で日本はもっと尽力しなければならないと感じます。しかし文化庁を文化省にという声も上がる一方で、文化庁の平成26年度予算は1036億円、職員も240人弱。やりたいこととやれることの乖離がかなり大きいというのが現実です。その中で特に私が取り組みたい一つが地方の力です。限界集落や先端産業などの工場がない地域でも文化的な祭りや伝統芸能などが根付き、大切にしている地域には「元気」があります。我々は地域住民の元気を持続し、元気が足りない地域に対して、自分たちの地元の文化を掘り起こして元気になるよう支援していくことが大きな仕事の一つではないかと考えています。例えば“文化芸術創造都市”として、自分たちの創意工夫でまちおこしをし、その内容が優れたものについては文化庁として表彰を行っており、昨年度はいわき市、八戸市、千曲市、尾道市の4都市を取り上げました。

木下 東京は発信力やマーケット力はありますが、文化、芸術、伝統芸能は地方が数多く保有しています。地方文化を掘り起しすることにより、住人が元気で誇れるまちづくりにつながればいいですね。

青柳 首都が拡張・膨張して元気になる、その推進力は世界的には必要ですが、国内的には首都一極集中、地方に活気がないのは国力の衰えにつながります。多様性のある文化は将来的な展望へつながるので、中小規模の都市が特徴ある文化的活動に取り組むことは大変重要です。



国際力はバイリンガルと多様な情報発信

木下 長官は経歴としてローマ滞在など海外の研究者や仲間との交流も多いと思われますが、日本の文化政策の発信力についてはいかがですか。

青柳 日本にはこれまで積極的な発言は良しとされないコンセンサスがありました。しかしグローバル化社会の進行の中で文化的なアイデンティティを国際社会で表明することは国の存在感につながっていくように意識が変化してきました。発信力に必要なことは二つ。一つはバイリンガル教育。国際会議の場面でも即、相手の言葉で応じられるレベルが求められます。もう一つは官学それぞれの専門価値観で、多種多様な情報発信を波状的に行うことだと思います。

木下 日本人気質の転換が求められる時代ですが、古典文学など日本の文化は身につけておかなければなりませんね。

青柳 例えば、欧米のティーパーティーなどで、『西洋のカップには持ち手がありますが、日本の器は掌(たなごころ)で持つ文化なので、形にも素材にも温もりが感じられるのです』など自国の文化を認識しきんと語ると、その場での存在感も変わってきます。日本には日本画や伝統工芸など世界的に冠たるクオリティを持ちながらも、それらを解説できる人が非常に少ない。そういうことも大きな課題ではないでしょうか。

木下 アウトバウンド化に向けて海外交流などの取り組みも必要です。

青柳 今年、東京大学では夏季休暇で

空いた北海道の実習施設を利用し、国際ドクトランコースの開講をイギリスで募集したら90人の応募があったそうです。海外の若者は日本文化に興味があるので、このような教育プログラムで引き寄せることも一つですね。また最近、東京湯島のシティホテルがバックパッカーの外国人向け宿泊所に転換し、若い人を積極的に受け入れています。

木下 海外の留学生、研究者との文化的交流の場が必要ですね。国際会議ではハイレベルな宿泊ホテルも求められますが、京都の古い町家を利用した手頃な宿も地域交流を好む外国人に人気です。東京オリンピック・パラリンピックが決定し、関西では文化的交流への取り組みを一段と進める雰囲気が高まっています。その一つが「国際博物館会議」の京都誘致ですが、京都もまち全体で文化が語れる雰囲気を作らなければなりません。私は京都を“知的交流都市”として掲げ、海外旅行者は京都の人とハイレベルな文化的会話が楽しめる、高いホスピタリティを持つ交流都市にしたいと思っています。

青柳 インバウンドにはMICE也非常に重要となりますね。

国際会議の誘致に欠かせない地域力

木下 京都国際会館は設立当時から会議規模に合わせた様々なサイズの会議室を数多く持ち、各種タイプの会議に活用されています。会議室やロビーは有意義に活用して外国の研究者や留学生の交流サロンとして、情報交換、語らいの

場とすることを考えています。

青柳 日本の伝統工芸品を常設し、海外の方々に様々な作品を紹介していただきたいですね。

木下 会館の庭園に美術作品を設置して庭園美術館を開催することも考えており、今後は文化芸術、健康スポーツなどをテーマにした会議場の運営にも取り組んでいきたいと思っています。

青柳 海外で大規模な国際会議が開催される場合、国や会場都市が援助してくれますが、日本はそういう習慣がありません。地方自治体も厳しい状態ですが、会議のためのファンドレイジングを活性化できればと。国際会議は今後さらに重要なになります。インターネットで多くのことはコミュニケーションできますが、微妙なことをメンバーと合意結成するにはやはり一堂に集まらなければなりません。世界全体は行動化社会へ。それには三か国語、四か国語ができる同時通訳者の育成も必要です。誘致が増えれば需要が生まれるので人材も育ちます。

木下 9月13日、京都国立博物館に「平成知新館」がオープンしました。例えば国際会議期間中、参加者が寺院、美術館など夜間拝観ができるなど前向きに対応いただけるよう文化庁としても様々なご提案をいただけたとあります。

インタビュー●木下博夫

1943年生まれ。国土事務次官、阪神高速道路(株)社長等を経て2012年より国立京都国際会館館長・常任理事を務める。

日本庭園でおもてなし



ティーやレセプションでの印象に強く残る打ち上げ花火や、水面に映える個性的な舞台演出は会館ならではのものです。最大で約3000人が集まる庭園は解放感にあふれた空間となっています。

木々が色づく秋を迎えるなか、様々な活用シーンを通して美しく彩られてゆく四季折々の庭園の魅力をご紹介しましょう。



賑わい華やぐとき

ビュッフェや屋台などを設けたパーティーやイベントで参加者の交流を盛り上げます。また一般市民の方々が気軽に来場できる楽しい企画も展開しています。



古都の雅にふれるとき

回廊型の舞台で繰り広げられる日本の伝統芸能の鑑賞や日本文化の体験は特に海外からの参加者に好評です。



庭園の一角に佇む茶室「宝松庵」



京都市内で唯一の打ち上げ花火。大きな国際会議や学会などで打ち上げられています。

圧巻！手筒花火の熱気に参加者も昂る心

夕暮れから夜にかけてのレセプションやイベントでは、参加者にサプライズな演出を提供できます。

京都洛北の山並みを借景に、緑あふれる自然に包まれた京都国際会館の「日本式回遊庭園」は、建築家・大谷幸夫氏(1924-2013)が日本の原風景の里山や棚田にも通じうる庭園として設計しました。

“人は自然の中に集い話し合う”というコンセプトとともに、人々が心地よく対話でき、そして人々の語らいを活気づける屋外空間として、比叡山を背景に、宝ヶ池周辺の山々や木立を映し出す“池”とそのなかを巡る“浮橋”が一体となって、豊かな交流の場を創りあげています。

会議やイベントの参加者が散策を楽しんだり、パー



京都国際会館 主催イベント

開催予定

建築シリーズ2

公共建築の長寿命化を考える ~公共建築におけるハードとソフト~

2014年11月17日(月)13:00~16:45

京都国際会館では、建築シリーズの第2弾として講演会と館内・庭園等見学会を実施します。公共建築物は、街並み形成などを先導する役割とその施設を利用する人にとって快適で安全な施設であることが求められます。高度経済成長期に整備された公共建築の老朽化が進む現在、既存施設の有効利用などが求められており、長寿命化の促進が公共建築の課題となっています。本講演会は、建物の整備(ハード)と運用(ソフト)の両面を参加者と共に考える機会として、公共建築の諸課題を多方面から考察し建築文化の継承について考えています。詳細はホームページをご覧下さい。



開催報告

感謝の夕べ 2014

~西洋と東洋が織りなす魅惑の風に乗って~

今年は、7月18日・19日に国交樹立90周年を記念してテーマ国をトルコ共和国とし、「感謝の夕べ2014」を開催しました。オープニングには大使をお迎えし、トルコ館と称したアネックスホールでは、トルコ料理の屋台(ケバブサンド、トルコアイスなど)やキリムなどの特産品、またトルコと縁(ゆかり)のある和歌山県串本町のブースなどが並び、大勢の来場者で会場は盛り上がりしました。庭園のステージではトルコの民族楽器の演奏や舞踊、また豪華賞品が当たる抽選会も開催しました。最後は夏の夜を彩るレーザーショーと花火が上げられ、大歓声に包まれました。



全国からファン入洛! ベニシア・スタンリー・ミスさんを迎えて 「四季を愛する心」



ふれあいトークの様子

ロビー(マルシェ)の様子

9月19日(金)京都・大原の古民家で暮らすイギリス人女性・ベニシアさんをお迎えして、映画上映会と講演会「ふれあいトーク」を開催しました。

全国から約800名の方々がご来場。会場のアネックスホール内では、自筆のスケッチ展示、ロビーでは、ベニシアさんと親交のある「ものづくり職人」による実演やハーブ苗、和ばら、京都大原の名産品などのマルシェ(販売)で大変な賑わいを見せました。第1部は、ベニシアさんの半生を描いた映画『ベニシアさんの四季の庭』を上映しました。第2部の講演会「ふれあいトーク」では、ハーブの効用についてのクイズや、ご来場者からの質問に気さくに応じる質疑応答タイム、更に、英国の伝統的バラードをみんなで歌うなど、ベニシアさんと参加者の距離が縮まった楽しくアットホームなイベントとなりました。講演の締めくくりにベニシアさんは、自然に心を寄せることで生まれる感謝の心や命の大切さについて感慨深いメッセージを残されました。

2014年
10月~12月

開催予定のイベント・会合一覧

(2014年10月1日現在)

日程	催事名	人数
10月3日	平成26年度京都府戦没者追悼式	1,300人
10月5日~7日	第11回科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム	900人
10月15日~18日	第87回日本生化学会大会	4,000人
11月1日	古典の日フォーラム2014	1,800人
11月1日~4日	国際内耳ワークショップ 2014 京都	500人
11月5日	京都国際環境シンポジウム	1,000人
11月6日	第52回全国小学校社会科研究協議会研究大会 京都大会	1,000人
11月10日~12日	第30回京都賞授賞式・記念講演会・記念ワークショップ	3,000人
11月14日~16日	第55回日本肺癌学会学術集会	4,000人
11月17日	建築シリーズ2 公共建築の長寿命化を考える~公共建築におけるハードとソフト~	250人
11月17日~18日	京都統計国際会議	100人
11月17日~20日	第六回系統連携国際会議	300人
11月19日~21日	第55回電池討論会	2,500人
11月22日	第58回(平成26年秋)宝松庵茶会	600人
11月23日~27日	第6回太陽光発電世界会議	1,000人
11月29日	第55回日本視能矯正学会	2,000人
11月29日~12月1日	第70回日本弱視斜視学会総会・第39回日本小児眼科学会総会・アメリカ小児眼科斜視学会 合同学会 第12回国際斜視学会	2,000人
12月6日	第17回京都市PTAフェスティバル	4,000人
12月6日	世界遺産「古都京都の文化財」登録20周年記念シンポジウム	500人
12月10日	第43回日本免疫学会学術集会	2,000人

※参加者100名以上の会議(参加者数は概数)

ピックアップイベント

A 古典の日フォーラム 2014

2014年11月1日(土)

2012年から『古典の日』と定められた11月1日に、『古典の日フォーラム2014』が開催されます。今回は、「古典と私」をテーマとした連続講演と2015年に琳派誕生から400年の記念の年を迎えることから、それに先駆けた特別企画として琳派400年記念対談「現代に生きる琳派」が開催される予定です。人間の叡智の結晶である古典の世界の関心を高める大きな機会となることでしょう。

B 第6回太陽光発電世界会議

2014年11月23日(日)~27日(木)

太陽光発電システムが、地球環境問題やエネルギー問題を解決する重要な手段として大きな期待が寄せられる中、クリーンエネルギーを創出し、環境にやさしい持続的社会を実現させるためには、太陽光発電技術を一層深化させ、実用化と地球規模での本格的導入のための不断の努力が欠かせません。本国際会議は、海外から多くの参加者が集まる国際会議で、産業界・学会・公的機関を問わず、研究開発者や専門家が幅広く結集し、活発な討論を通じて、この分野の学術的進歩と社会が目指すべき新しいエネルギーシステムのあり方をグローバルな視点で検討、考案されます。

歴史箱

ICC Kyoto アルバム

2003
年



第3回世界水フォーラム

世界水フォーラムとは、水の専門家、政府、NGO、企業等、さまざまなステークホルダー（企業に対して利害関係をもつ人）が会し、「水をめぐる紛争」「水不足」「水質汚濁」「洪水」など水に関する多様な問題に取り組もうと始まった会議で、『国連水の日』に定められた3月22日を含む期間に開催されるものです。

第1回は1997年のマラケシュ（モロッコ）、第2回はハーグ（オランダ）で開催され、第3回が2003年3月16日～23日の8日間、アジア初の京都を中心とした滋賀、大阪の琵琶湖・淀川流域を舞台に182カ国・地域から2万4060人が参加して開かれました。

3月16日の開会式には皇太子同妃両陛下ご臨席のもと、第3回世界水フォーラム運営委員会会長・橋本龍太郎氏、世界水会議会長・ムハマド・アブザイド氏の挨拶で始まり、名誉総裁としてご臨席された皇太子殿下から「京都という地方を結ぶ水の道-古代・中世の琵琶湖・淀川水運を中心として-」という記念公演も行われました。

世界水フォーラムでは数多くの会合や催しが行われ、テーマの数は38、分科会は350余りに達する極めて多岐にわたる国際会議となり、京都国際会館も水フォーラム事務局と一緒に連絡・調整などにあたりました。フォーラムの成果としては「世界水行動報告書」「閣僚宣言」「水行動集」「暫定フォーラム声明文」などの発表があり、世界の水問題の解決への想いが発信され、成功裏に幕を閉じたのです。



記念講演をされる皇太子殿下

京都国際会館は、2016年の50周年に向けて 装い新たにリフレッシュしていきます。

現在、本館において各種改修工事を行っていますが、大会議場（Main Hall）の工事は10月をもちまして完了し、通常通りご利用いただけます。また同時期に実施しておりました正面玄関を含む外壁改修工事も完了します。今後も順次工事は完了し、みなさまにより快適に安心安全に活用いただける会議場へとリフレッシュしてまいりますのでご期待ください。



今月の表紙は本館の東側に位置するイベントホールと周辺の色づく秋の様子です。イベントホールの天井は最大部分で高さが19.2mあり、祇園祭の鉾がそのままに入る高さを持ちます。

表紙制作：金甫盈（キム・ボヨン）
京都精華大学
マンガ学部アニメーション学科 講師



改修工事中の大会議場

ICC Kyoto
Kyoto International Conference Center

国立京都国際会館

検索

© Kyoto International Conference Center. All right reserved.

編集発行 公益財団法人 国立京都国際会館
住所 〒606-0001 京都府京都市左京区宝ヶ池
TEL 075-705-1218
FAX 075-705-1100
E-mail com@icckyoto.or.jp
URL http://www.icckyoto.or.jp/